

認知症を知る

認知症キャラバン・メイト養成研修

地域や職場等で認知症に関する学習会を開き、認知症サポーターの育成を行う、講師となるキャラバン・メイトを養成する研修が、2月16日と17日、プラザ西伯で行われ、鳥取県中・西部の福祉関係者など64人が参加しました。研修は全国キャラバン・メイト連絡協議会と南部箕蚊屋広域連合の協催で行われ、浦上克哉鳥取大学教授、藪中富子主任介護士の講演後、8つのグループに分かれて、実際の講演を想定したカリキュラムの作成等が行われました。参加した男性は「認知症の人を地域で支えることが、地域づくりにも繋がっていくと思うています」と話されていました。



作成したカリキュラムを発表する参加者

より魅力ある図書館へ

鳥取大学医学図書館と協定



協定後に握手を交わす岸本館長(左)と永江教育長

2月27日、南部町立図書館と鳥取大学医学図書館の相互協力協定を結び、岸本拓治医学図書館長と永江多輝夫教育長が協定書を交わしました。

この協定は、お互いに不足している図書を相互に貸し出すなどの支援を行うものです。岸本館長は「協定をきっかけに、大学を気楽に利用して頂きたい。」と話されました。

協定後には岸本館長の記念講演も行われ、約40人が生活習慣病の予防についての話を聞きました。

今後の農業を語り合おう

土地改良区地域活動



説明を聞く参加者

農業者の高齢化等の現状を認識し、今後の農業のあり方を話し合おうと、2月25日、田住公民館で「田住区の今後の農業を、どうするかを皆で考えよう」が行われ、約50人が参加しました。土地改良連合会職員から農業情勢や、今後の事業等についての説明が行われた後、田住区内の樋門操作等を、若い農業者が年配の農業者から指導を受けました。終了後の懇親会では、地元で転作品種として栽培されている蕎麦を食べ、地元の味を楽しみながら、今後の農業について話し合いました。

よういんと南部町へ

一ターニ



役場に訪れた立見さん(中央) 2月5日

岐阜県中津川市から南部町上中谷(赤谷)に立見正行さん・律子さん夫妻が「タ・ノサレました。立見さんは、「南部町は近くに境港、大山、温泉があり、魚もおいしく、大きな医療機関があつて、組織が充実していると感じました。地元の方は、何も無い所」と言われますが、私たちがとっては山も川もあり、ぜいたくな環境です。区の皆さんにもサポートをしていただけると言ってもらい、住み続けられると思いました。今後は家庭菜園にも挑戦をしてみたいと思っています」と話されました。